

「洪水ハザードマップ」及び「内水ハザードマップ」のパブリック・コメントの結果について

「洪水ハザードマップ」及び「内水ハザードマップ」に対して、ご意見をお寄せいただきありがとうございました。  
市民の皆様からのご意見に対する市の考え方については、下記のとおりご回答させていただきます。  
引き続き、本市の防災行政に変わらぬご理解とご協力をいただけますようよろしくお願いいたします。

案 件 名	(1)「洪水ハザードマップ」(案) (2)「内水ハザードマップ」(案)
意 見 募 集 期 間	令和8年1月16日(金)～令和8年1月30日(金)
意見提出者数及び意見数	2名(3件)
意 見 の 公 表 場 所	市ホームページ 防災対策課、広報広聴課、各支所地域振興課
担 当 課	常陸太田市総務部防災対策課 電話：0294-72-3111(内線352) FAX：0294-72-3002 電子メール：bosai@city.hitachiota.lg.jp

【提出されたご意見と市の考え方】

No.	ご意見	左記に対する市の考え方
1	<p>ハザードマップ作成に際して、堤防の存在していない地域「島町山田川右岸（新川戸橋北側）」についての災害状況の評価に対し疑問を感じる。</p> <p>(1) 無堤地域の想定浸水深の5m～10mの範囲が極めて狭く感じる。</p> <p>(2) 周辺の地形や標高、既存堤防天端などを考えると疑問を感じる。無堤箇所周辺の広範囲に影響が及ばないだろうか。</p>	<p>ハザードマップにおける洪水浸水想定区域については、河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域と水深を示すもので、水防法に基づき国や茨城県が指定公表しているものを採用しています。</p> <p>また、地盤の高さや傾斜は、氾濫した水の流れ方や広がる範囲に大きく影響し、建物などの影響によっても浸水深は細かく変化するとされているため、洪水浸水想定区域を設定するに当たりましては、地形や建物などの影響を可能な限り考慮して浸水深が計算されているものと理解しております。</p> <p>なお、ハザードマップにおける洪水浸水想定区域については、浸水の深さを0mから20m未満の5段階に色分けをし、浸水深の目安を区分しております。</p> <p>ご意見をいただいた地域は、田圃が広がっている地形ですが、洪水浸水想定区域を検討する上で、国土地理院が提供している「5mDEM※」を使用し、地表面の標高を計算した結果、僅かな標高の違いが存在していたものと考えられます。</p> <p>よって、ご意見をいただいた地域は、見た目には水平に見える地形でも、僅かな標高の違いや地形（高台）などの影響により、大部分は3mから5mの浸水深であるものの、一部のエリアが5mから10mの浸水深エリアとなっていると判断しているところです。</p> <p>※5mDEMとは、航空レーザ測量によって得られた地形情報をもとに作成された5m間隔の標高データで、地形解析や災害予測など、様々な分野で活用されています。</p>

No.	ご意見	左記に対する市の考え方
2	<p>ハザードマップに地形図の標高をぜひ表示してほしい。</p> <p>(1) 無提箇所からの浸水の速度や方向など地形や標高に左右されます。身を守る行為として避難経路をイメージして安全を確保するため。</p>	<p>以前のハザードマップには、標高の値を表示していましたが、市民の方から「マップ全体が見えにくい。」とのご意見をいただくとともに、他自治体のハザードマップなども表示されていないものが多かったこともあり、現在のハザードマップには標高の値を表示していないという経過があります。</p> <p>よって、今回作成をしますハザードマップにも、標高の値を表示しないものと判断させていただきました。</p>
3	<p>洪水ハザードマップの根拠となっている降水量685mmは、地域性や地理的条件、気象データを加味して算出しているのか。どこの地域も一律で統一性がある合理的である半面、科学的知見はあるのか。</p> <p>雨量観測所の降水量のデータがあるが、統計的に過去最大降水量のデータと異なり、整合性に欠ける。今後想定外の災害が予測されるが、本当に地域にあった数字なのか。</p>	<p>今回の洪水ハザードマップを作成するに当たり、浸水想定根拠となっている降水量については、1年間に発生する確率が1/1,000以下という、非常に稀な規模の最大規模降雨量となっています。</p> <p>これは、日本全体を降雨特性が似ている15の地域に区分し、その各地域で観測された過去の降雨データなどの解析結果から、降雨継続時間別、対象地域面積別に設定された最大の降雨量であり、大規模な水害に備えるため、国や都道府県が浸水想定区域図を作成する際のシミュレーションに活用されているものです。</p> <p>よって、本市においても、国や茨城県が最大降雨量として想定した最大規模降雨量を用いて作成した浸水想定区域図に基づき、今回のハザードマップを作成しております。</p>